

2025（令和7）年度

自己評価及び外部評価結果

【事業所概要（事業所記入）】

事業所番号	149260175	事業の開始年月日	令和2年9月1日
		指定年月日	令和2年8月1日
法人名	一般社団法人 東林間輝		
事業所名	グループホーム東林間		
所在地	(252-0311) 相模原市南区東林間5-6-21		
サービス種別 定員等	■ 認知症対応型共同生活介護	定員計	18名 ユニット数 2 ユニット
自己評価作成日	令和7年10月3日	評価結果 市町村受理日	令和8年2月25日

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

基本情報リンク先 <http://www.rakuraku.or.jp/kaigonavi/>

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点（事業所記入）】

理念 ①あなたの笑顔が見たいから ②真心と安心のある介護をめざして ③地域に根ざす家族愛 1. 理念に沿ったサービスを提供するようにしている 2. 入居者様・ご家族様の意向に寄り添い出来る限り最期まで輝で過ごしていただけるような関わりを心がけている 3. 入居前の習慣を失わずその人らしさが活かされる生活を目指している 4. 持っている力を最大限に引き出す関わり方をしている 5. 介護と医療の連携ができています 6. ご家族様がいつでも面会ができる雰囲気作りをしている 7. 旬の食材を使った献立、手作りで家庭の味を提供している 8. 職員が元気で明るく働ける環境づくり

【評価機関概要（評価機関記入）】

評価機関名	株式会社フィールズ		
所在地	251-0024 神奈川県藤沢市鵜沼橋1-2-7 藤沢トーセイビル3階		
訪問調査日	令和7年11月7日	評価機関 評価決定日	令和8年2月9日

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

小田急江ノ島線「東林間」駅から徒歩約3分のところに立地しています。鉄骨造りの建物の2階、3階が事業所で、1階に同一法人の小規模多機能型居宅介護事業所を併設しています。 <優れている点> 利用者との丁寧な会話を重視し、会話から得られる思いや価値観を汲み取り利用者のやりたいことの支援に努めています。言葉で思いを伝えられなくなっても、これまでに把握した大切な事などを基に利用者の声を推測し、ケアの質の向上に努めています。フロアに大きな文字で明示した「あなたの笑顔が見たいから」など3項目の理念は、職員のみならず利用者が自然発生的に唱和するほど浸透しています。散歩を通じた気分転換を重視する職員が、主体的に散歩支援に取り組み、職員の働きがいと利用者の笑顔につながっています。地元の阿波踊りの連盟に依頼した行事には、世代を超えた参加があり利用者が地域の人々と交流する楽しみな機会になっています。手作りの食事は、利用者にとって大切な楽しみになっています。商店振興会、食材の購入先など地域の人々に積極的に働きかけ良好な関係を築いています。 <工夫点> 法人食事部の職員を要し、利用者とケアの時間を多く過ごせるようにしています。職員の主観が入らぬよう利用者が発した言葉をそのまま記録し、言動の背景を推測して必要な支援につなげています。
--

【地域密着型サービスの外部評価項目の構成】

評価項目の領域	自己評価項目	外部評価項目
I 理念に基づく運営	1～14	1～10
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援	15～22	11
III その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント	23～35	12～16
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援	36～55	17～23
V アウトカム項目	56～68	

事業所名	グループホーム東林間
ユニット名	2階

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
66	職員は、生き活きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	理念を各ユニットに大きく掲示している 職員は業務で迷いがあつた時はいつでも理念に自分の行動に照らし合わせ行動の鏡にしている 職員全員で理念を見直をしたが「誰が見てもわかりやすい」などの意見が多かつたが時代（空気）の流れに合っている理念なのか適宜検討する必要はあると感じている	職員は、自分の言動・行動に迷ったら理念に基づき振り返ることを念頭に置き、利用者の体調管理に注力して日々の生活が楽しめるよう努めています。年度末に理念を検討しています。フロアに明示した大きな文字の「あなたの笑顔がみたいから」などの3項目の理念は、職員のみならず利用者が自然に唱和するほど浸透しています。	
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	東林間自治会、東林間商店復興会に加入している今年も商店街のゴミ拾いに参加している 地元の有名な阿波踊りを連盟の方に協力してもらい屋上で踊りを披露していただいた 近所の方や家族も見に来られ一緒に楽しむことができた	自治会や商店復興会に加入し、美化運動に参加しています。演歌歌手やフラダンスなどのボランティアが来訪しています。小規模多機能型居宅介護事業所の催しに参加しています。地元の阿波踊り連盟に協力を仰いだ好評の催しには、世代を超えて近隣住民が参加し利用者や家族が地域の人と交流しています。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	春先に運営推進会議で認知症の病状や支援や関わり方などのお話をさせていただいた 今後も、住み慣れた地域とともに生活、共存がでるよな社会でありたいと願っているので今後も機会があれば認知症の方の理解を深めていけるようにしていきたい		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	2か月に1回のペースで運営推進会議を開催している 参加者は、地域包括担当者、自治会長、老人会会長、民生委員、ご家族代表など7名程度 入居者の状況報告や行事を行った時のエピソードをご披露している 参加者からは地域についての困りごとなどの話しが出たりした 災害時は、発電機や井戸水があるので協力したい お互いに支え合うことにしている	地域包括支援センターの職員、民生委員、自治会会長、老人会会長、家族代表、事業所の職員が出席して概ね偶数月に開催しています。認知症の理解を深めてもらう目的で勉強会を実施しています。非常災害時の対応が話題に上り、発電機を新設したことや井戸水を地下タンクに貯め、日常的に風呂やトイレで使用していることを伝え、災害時には地域と協力してそれらを社会資源として役立てる旨を申し出ています。	
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる。	介護保険制度に係る内容は相模原市福祉基盤課や介護保険課を窓口にして相談や申請を行っている。 すぐ目の前に地域包括があるので何かあると相談にのっていただいている また生活保護受給者枠を設けているので福祉事務所(南生活支援課)の担当者とも連絡・相談など連携を図っている	電話での相談のほか、運営推進会議の報告書や事故報告書の提出を介して福祉基盤課の担当職員と情報を共有しています。生活支援課の職員とは、生活保護費を受給している利用者の状況などを共有し、入院が必要な際には受け入れ先を探すなどで協力関係を築いています。地域ケアプラザと市社協共催の「施設ツアー」に参加しています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が、身体的拘束等の対象となる具体的な行為を正しく理解するとともに、身体的拘束等の適正化のための指針の整備、定期的な委員会の開催及び従業員への研修を実施し、緊急やむを得ない場合を除き、身体的拘束等をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束委員会4回、一般研修を年に2回定期的に行って理解を深めている 身体拘束をしないケアを努めているが歩けない方が立ち上がってしまうと「ちょっと待って下さい」という発してしまい反省と工夫をしている。スピーチロックに対する問題意識が高まっているように感じている 長時間の点滴が必要な方が動き回り針を抜かないように見守り、付き添いをご家族に協力出来ないときも拘束をしないで付き添っている	「身体的拘束等の適正化のための指針」を整備し、定期的に委員会及び研修を行い身体拘束をしないケアに努めています。「ちょっと待って」などのスピーチロック対策は、「何分待ってください」と言い換えています。必要な人にフットセンサーを活用し安全を確保しています。向精神薬の導入についても、医療関係者と連携し慎重に検討を行うなど、ドラッグロックの防止に努めています。	
7	6	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	虐待防止委員会4回、一般研修を年に2回定期的に行って理解を深めている。小さいあざなどを発見した時も社内だけではなくご家族や医療職にも繋げている報・連・相を大切に虐待を疑われることのないようにしている。勤務表を作成することも従業員がストレスがたまらないように気をつけている 虐待を発見したら報告義務があること、通報窓口の周知も研修の中でも行っている 自己点検シートを活用し意識向上も図っている	指針を整備しています。虐待防止委員会及び研修を定期的実施し「虐待を早期に発見するポイント」などを学んでいます。自己点検シートを活用し、日頃の言葉かけが心理的な虐待につながっていないかなどを振り返っています。勤務表作成は、夜勤と早番が連続しないように配慮するなど、ストレスが溜まらないように注意を払っています。虐待の兆候を発見した際の報告義務について職員に周知しています。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。	以前、相模原市における権利擁護の相談・説明会に参加したことがある。 家族には相模原成年後見やあんしんセンターの権利擁護相談があることもお伝えしている。 そして、活用するときにはその必要な書類に記入するなど支援をしている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	家族に対しては納得していただけるよう施設長と総務部長が十分な説明を行い契約をしている。 また、金銭の改定については、説明をして同意書をいただいている		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	毎月、家族あてに手書き手紙やメール・電話でのやり取りをしている。 どのような生活をしているか、してほしいのか聞いている。 そして、必ず返信はしている。 今年、敬老会を行い普段の生活の様子を見ていただきながら発言しやすい雰囲気を作った。 できないと思っていたことができていくと嬉しかったなどの意見があったので運営推進会議等で報告する予定になっている	利用者の要望などは、日々のケアを通して、家族の意見・要望は、来訪時や運営推進会議、電話連絡の際などに把握しています。毎月発行する「介護報告書」では、感染症対策などの協力依頼だけでなく、面会後の利用者の喜ぶ様子などを具体的に記し、情報共有を図っています。家族が数名参加した敬老会では、運営に関する特段の意見はありませんでしたが職員へのねぎらいの言葉をもらっています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	総務部長や管理者はフロア会議や個人面談以外でも話を聞くようにしている。 職員と話しやすい関係を築けるようにしている。 話の内容は運営というよりも人間関係の困りごとが多い。 その内容で解決できることはスピードをもって対応している。	管理者は、日々の会話やフロア会議、個人面談などで職員の意見や提案などを把握しています。就業規則の見直しに伴い夕刻の入浴希望などに対応できるよう勤務時間帯を変更する意向です。日常的に来訪している総務部長に職員が相談する機会も多々あり、迅速に対応することが可能となっています。	
12	9	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	年に2回の個人面談を実施 状況に合わせて随時面談を行い環境整備に取り組んでいる また希望休・有給休暇に関しては全職員が取得できる環境になっている 給与においても頑張りを評価・説明している パートさん含め全員に賞与を渡している また年に1回お誕生日には祝い金をプレゼントしている	法人は、キャリアアップ制度と人事評価制度を採用し、年2回個人面談を行い公平な評価をしています。就業環境を整え、休憩場所を確保し、誕生日の祝い金が支給されます。法人が調理部の職員を配し、食事作りの時間を利用者に関われる時間に充当できるようにして就労の定着につなげています。パワーハラスメント委員会を中心に研修を行い理解を深めています。	
13	10	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	常勤・非常勤職員にも外部研修を受講できるようにオンライン(ZOOM)などでも積極的に参加し人材育成に努めているが人員配置が難しく受けられないときもあった 力量に似合った研修を選んでいる 参加した職員には記録や会議の場で報告を行い知識の共有を図っている また、初任者研修など資格取得がしやすいようキャリアアップ制度も利用し取り組んでいる	年間研修計画に基づき、法定研修を中心に事業所内研修を実施しています。研修に参加できなかった職員は、フロア会議や資料の回覧で内容を共有しています。夜間専門の職員は、研修動画を視聴し、理解を深めています。受講が承認された外部研修は、出勤扱いで法人が費用を負担しています。居室担当や職員が得意とする事を探して写真係などの役割を課し育成しています。	外部研修を受講できるよう外部の講師を事業所に招くなどの工夫をすることが期待されます。
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	相模原市のグループホーム連絡会に参加し情報交換と質の向上に努めている市の実地指導の内容や入居者の問い合わせの照会など情報交換をしている		

II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援

15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	計画作成者と介護職員が事前に訪問し、本人の意向を確認をして要望に沿った介護に努めているが自宅で過ごしたい方が多いため顔を覚えてもらえるよう サービスを利用開始になるまでは何度か自宅へ訪問したケースもある。認知症が重い方の思いもくみ取れるように会話を大切にしている		
----	--	--	--	--	--

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	電話相談の段階から困りごとなどの話を聞くようにしている。 また、できることできないこともお伝えし誤解が生じないように説明をしている 事前面談でも、家族の思いなどくみ取りながら関わり方を考え対応をしている。 そういう中で理解し信頼が深まっていると感じている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	計画作成者と介護職員リーダーが事前訪問で得た情報を生かし、介護サービスに反映させるようにしている。 ボランティアなどのインフォーマルサービスも活用したいと思うがいまだにできていない		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	入居者様の過ごしてきた環境をできる限り維持できるサービスに努めている 男性・女性に関係なく持っている力を発揮できるよう声掛け見守りをしているが、私たち職員が助けてもらっている場面も多くある。 感謝の気持ちも伝えている 達成感や満足感をもってもらうことで本人だけでなく職員もやりがいを感じる自立支援も意識している		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	家族様が面会に来られた際に普段の楽しいエピソードなどをお伝えしている また家族様との会話でも本人様の気持ちを代弁をして一緒にケアを考えていただくこともある 出来るだけ家族様が安心して帰られるようにしている 遠方の親戚からの電話や連絡にも職員が介入している 家族との過ごす時間を大切にしている		
20	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	誕生日や外出は本人や家族の意向を尊重し外出等もしていただいている。 元同僚の訪問など友人の訪問時は、お邪魔にならない程度に介入し笑顔で接するようにしている。 アヤメ見学や公園など行ったことがあるような所には外出レクとして出かけている	知人の来訪時には湯茶でもてなす場を設けるなど、以前からの人間関係の維持を支援しています。 屋上で好みの品を囲んで交流するほか、併設事業所での麻雀といった趣味活動の継続も図っています。新聞受けや化粧、仏壇への供水など、長年の生活習慣を日々の暮らしの中で途絶えさせないように、個別の意向に沿った配慮を行っています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	要介護度の違う入居者様が各々孤立しないように席の工夫などを行っている また、見下したものの言い方をされないように職員が介入して入居者様同士の関わり合いを増やす機会を作っている		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	退去後も家族から本人のみならずもう一人の親のことで相談や報告のご連絡があった 入居を検討してくださっている		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	普段の会話や関わりの中からその方の思いや希望をくみ取るようにしている。その人らしさを大切にして関わっていくように気をつけている 状態の変化に気づきアセスメントやモニタリングをしてケアプランの見直しをしている 職員・家族との情報を共有し職員本位のものとならないように気をつけている 職員は連絡帳や業務日報を見てケアの変更など把握する様にしている	利用者の意思や、意向の把握と継承に努めています。利用者との会話を重視し、利用者を深く理解するために、その人が自らの言葉で意思を伝えられる貴重な時間を大事にしています。利用者にとって自叙伝や写真、自身の作品の編み物への愛着や、過去の生活背景など細かなバックグラウンドを丁寧に拾い上げています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入居時には家族・担当ケアマネジャーからも情報をいただいている 暮らしの希望、意向を把握し習慣など情報の共有をしている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	毎日バイタルチェック（血圧・体温・SP02）を行っている 1日の過ごし方など、朝・夕に申し送りを行い現状の把握に努めている また、表情や言動も見ながら1日の過ごし方など考え対応している 職員間でも心身の状況の共有をしている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	介護職員の思い込みにならないようにフロア会議・ショートカンファで話し合っている 家族・医療関係者の意見を反映させた介護計画を作成し同意・署名をいただいている その方の状態に合わせてケアのあり方を検討している	その人らしさや人生観を重視した目標を作成しています。ADL（日常生活動作）だけでなく、入居前に自宅を訪問し、歩行状況やその人が活躍できることも考慮しています。変化があった場合は、随時ショートカンファレンスの中で話し合い、支援方法を検討しています。本人の意思を尊重し、例えば「寿司を食べに行く」といった具体的な目標を設定し、本人中心のケアに努めています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	入居者様の様子は個別の記録をしており、PDCAなどヒントがある時にアンダーラインを引いている 入居者様の状態によって記録用紙を一時的に変えて「見える化」にして情報共有しケアの見直しを実践している 家族に個別記録の開示をしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	家族の希望で病院ではなく輝でできるだけ長く過ごさせてあげたいとの希望が多い 輝や介護者ができることできないことを説明した上で、家族・医療職そして介護と連携をして看取りができています 家族からは面会時間の制限がなく好きなときに来れて良かったと感謝された		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	地域資源をもう少し把握する必要がある 公民館や地域で行っている催し物会場に参加したり 昔得意としていた刺繍や編み物の展示会など見に行けたら良いと思う また、ボランティアも入れて楽しめる時間を増やしたい		
30	14	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	近くの整形外科に通院していたが、主治医と本人の希望もあって遠方の整形外科に通院して歩行ができるようになった。 また、主治医と訪問看護ステーションとは24時間の医療連携をとっているため訪問もしてくれて薬の指示や点滴などの対応もして通院や入院などしなくても家族・職員共に安心ができています。 他の病院を受診をする必要が或る時は紹介状を準備して下さったりfaxを送ってくれている 主治医は状況によっては、家族に連絡や説明してくれている	医師との連携は部長が担い、窓口を統一して信頼関係を大切にしながら情報を整理し、伝達漏れを防いでいます。利用者の希望や日常の様子を丁寧に記録し、訪問医や看護師と情報を共有して、適切な医療が受けられるよう努めています。職員全員がAED(自動体外式除細動器)および心肺蘇生の研修を受講し、緊急時に迅速かつ適切に対応できるよう取り組んでいます。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	24H対応の訪問看護・クリニックと提携をしている、ともに月2回他何かあった時はその限りではない 訪問看護師には関わりの中での精神的・身体的等の変った点などの気づき、薬の変更等を含め報告相談をしている。医療と介護の連携が取れる様に医療連絡ノートを記入し情報を共有している LINEアプリでも随時連絡をとっている 看護と介護が連携して家族様に安心していただき看取りもできた		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	骨折や原因不明熱で入院が必要となった時は日常の様子が見える職員が家族と一緒に付き添いをしている 病院関係者から情報を収集し輝の主治医にも報告している できるだけ輝での生活に戻れるように支援している		
33	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域との関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	重度化した場合や終末期のあり方について意向を伺っている 看取りの方針に基づいてご家族に説明し、同意・署名をいただいている 状態に変化がある度に家族の意向に変更がないか伺い、輝・家族・医療職のチームで情報を共有し支援している	重度化に伴い、終末期のあり方について、本人・家族の意向確認を同意書や担当者会議の中で行っています。「最期をどこで過ごしたいか」という意思表示や意思形成が混乱しないよう、性格やADL(日常生活動作)などを考慮して尋ねています。特に痛みがある時などは、揺れ動く家族の思いを再確認し、ホームでの対応が難しい場合はその旨を随時伝え、本当に安心できる場所の確認を重ねています。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	転倒事故や急変時に行わなければならない事や救急車要請時の報告の仕方・持ち物など、いざという時に対応できるように確認している 連絡先などはわかりやすいように電話のある壁に貼ってある		
35	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	毎年2回訓練を実施している 地元の消防署の協力ももらい避難訓練・消火訓練を行う 訓練では人手の少ない夜間帯での想定訓練の実施した 他には備蓄管理(消費期限)・保管の見直しや停電時に備え発電機も購入した 災害時には事業所内の井戸水を地域でも使用してもらうことを伝えている BCPを作成し研修に向けて取り組んでいる	備蓄品や井戸水による水資源、発電機を確保しています。井戸水は平時から風呂やトイレに使用し、ライフラインが途絶えた際には発電機に切り替わり、水源の確保ができるようにしています。消防署立ち会いの避難訓練を実施しており、車いす使用の利用者も含め、ほとんどの利用者が参加して移動訓練を行っています。防災頭巾を椅子の座面の下に準備し、地震発災後すぐにテーブルの下に潜って被れるよう、安全に努めています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	17	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	入職時には、必ずマニュアルを利用して研修している 認知症という病気の理解を深め否定をせずその方の思いに寄り添う介護ができるよう努力している 身だしなみも気をつけ、お化粧なども継続して支援している。「その人らしさ」を意識している お手洗いの声掛けの大きさ、タイミングを配慮し 難聴の方にはジェスチャーで伝え入浴は、できるだけ同性介助している	更衣介助の際にも十分な配慮をしています。介助が必要な部分のみを安全に観察し、羞恥心に配慮して視線を外すことで、利用者の尊厳の保持に努めています。脱衣所にはカーテンを設置し、他の利用者や職員から見えない空間を確保しています。入浴中は、異性の職員が脱衣所や浴室周辺の業務に当たらないよう注意しています。空間全体のプライバシー確保に努めています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	職員の思いだけではなく基本はご意向を伺うようにしているため入浴日も決めていない「はい、いいえ」で答えられるような簡単な聞き方をしている 重度化してもその方の思いを大切にするため言葉はしっかりと受け止めて記録に残し共有している		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	職員の都合や業務を優先しないように入居者様本位で対応するように心がけている 共同生活の場でもあるので他の方とのバランスも見ながら調整し対応している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	訪問理髪は2か月に1回行っている カラーリングや希望のヘアカットにしている 季節に合ったその人らしい着こなしになるよう、お化粧(アイブロー・口紅)ができるように関わっている		
40	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	盛り付けや片づけは入居者様とおしゃべりしながら一緒に行っている 季節感のある献立を提供している 残すことの多い献立については見直し皆の好みに合わせている 行事の際は握り寿司を提供、生ものが苦手の方には炙りやシラスなど代替えで対応している 屋上も開放し手作りのおにぎり(皆で握って)を食べるなど「食べる楽しみ」を大切にしている	「生活の一番は食事」を大切に、「美味しいものを食べていただきたい」という思いを実現しています。食事を通して「美味しかった」「楽しかった」と感じてもらえるよう、毎日、食事部による手作りの料理に加え、元板前の部長が市場で仕入れた新鮮な魚を捌いた海鮮丼も週に一度提供しています。利用者の目の前で寿司を握り、職員の手で非日常の食事を提供しています。朝食はパン食のメニューにしています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	食事量・水分量のチェック表を活用している 体重の増減・体調の変化に合わせて量や食事の内容や好みの飲み物なども変えて対応している 食事量が少なくなった方には、ラコールなども飲んでいただくよう関わっている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	毎食後は必ず口腔ケアの声掛けをし、一人では難しい方は介助し実施している また訪問歯科の利用もあり、助言を頂きながらケアに反映している 誤嚥性肺炎にならないよう十分に気をつけている		
43	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	出来る限りトイレで排泄をしていただくよう声掛け誘導している。夜中も、トイレが頻回でお連れすることができない方にはポータブルトイレを使用している 排泄チェック表を確認しながら排泄リズムの把握に努めた結果、リハビリパンツから綿のパンツに変更することが出来た 声掛けや誘導の際はプライバシーに配慮している 夜間も安眠妨害にならない程度に声掛けしている	ホームでの生活を快適に過ごせるよう、自立排泄を大切にし、夜間帯も家具を調整しトイレでの排泄を重視しています。入院先で膀胱留置カテーテルが必要になった際は、皮膚状態と自己抜去の危険性を考慮し、病院の担当者会議で医師に複数回相談しています。支援経験を踏まえ、安全性の高い代替方法を選択し、職員が新しい実施手技を習得するため入院先の病院で研修を受け、衛生面や安全面の適切な管理を行い、一人ひとりに合った支援に努めています。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	消化の良い食事の提供、牛乳・ヨーグルト・カルピスなどの提供、毎日のラジオ体操や嚥下体操、廊下歩行運動など一緒に行ったり、時には腹部のマッサージなどをし便秘解消に努めている。また申し送りを行い排便コントロール(頓用薬)もしている。イチジク浣腸でやっと排便が出来ている方もいる		
45	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている。	曜日は決めておらず入居者様の状態や気分に合わせて対応している。 また同性介助を基本とし、遅番・夜勤者対応で夜間に入浴していただくこともある シャンプーハットを使用している方もいる、井戸水のためか肌触りがいいように感じている 冬至の時は、近所からいただいた柚子を入れて季節を感じていただいている	利用者の「夜に入浴したい」という入居前の習慣を尊重し、希望の時間に入浴できるよう柔軟に業務を調整しています。シャワーの扱いが難しくなった人には、必要な部分だけを介助し、それ以外は「見守る」段階的介助でゆったりと入浴時間を楽しんでもらえるよう心がけています。入浴に抵抗感が見られる際には、清拭や着替えから始めるなど、無理のない方法で気持ちよさを感じてもらえるよう支援しています。	

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	騒音や照明など環境には十分気を配っている 就寝時間も個別に対応している 座っている時間が長くないよう短時間の休息をとっていただいたりしている 眠れない方にはホットミルクを提供しフロアで過ごしていただいたり足浴をして安眠につなげている		
47		○服薬支援 一人ひとり使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	誤薬のないようにダブルチェックをしている スタッフは大体だが誰が何の薬を服用しているのか把握するようにしている 薬に変更がある時には状態の変化にも気をつけ、家族・医療職にも情報の共有を図っている		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	主婦をしていた方には家事仕事を出来るだけ一緒に行うようにしている また歌や昔の職業・生まれ育った場所などに関連した昔話など(回想法)をして笑顔がみられている 麻雀や手芸など1F小規模の職員に協力してもらっている		
49	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	「お天気がいいね」と言われた時などは特に散歩や屋上に出て日光浴をしている「気持ちがいいね」「お花がきれい」と、また、家族との外出(自宅・外食)を支援している。 表情もよく気分転換になっている	日常生活の場をホームの外にも広げられるよう努めています。近隣への散歩や、スーパーマーケットへ牛乳を買いに行くことを日常的な活動として取り入れています。広い屋上での気分転換も大切にしています。併設の小規模多機能事業所へ、定期的に趣味の麻雀をしに行くなど、個別支援にも力を入れています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	お小遣いは施設で管理している 以前は職員と一緒に買い物に行き使うことを支援していた お金を持っていないと不安な方には家族から承諾いただき所持していただいている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価		
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	年賀状や手紙を書いていただこうとするが出来ずにいるが終末期を迎えている方に毎日のように「今の思い」と題して書いて頂きご家族が宝物にすると大変喜んで下さった。家族や友人からの入電時にはお繋ぎし会話できるように職員が仲介している また自身の携帯電話の操作がわからない方には使い方をお伝えしている 1日1枚、ご自分の思いを書いていただいている いつか家族に渡したいと思っている	/		
52	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	玄関やフロア内には季節を感じていただけるよ模様替えをしている トイレは1日3回の清掃、共有の空間は毎日清掃・消毒・換気に気をつけ感染症対策に気をつけている。 居室には、自作の水墨画や刺繍の壁掛けが飾ったりしている	掲示係や写真係が主体的に活動し、職員と協力して作品を制作しています。ぬり絵や大型の壁掛け作品は、季節を感じられる題材を選び、利用者が自ら手がけた作品を飾ることで、達成感や会話のきっかけ、季節感の共有につながっています。屋上は、夏の夕暮れ時には風が心地よく通り、夕涼みや気分転換の場として活用しています。	/	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	テーブルの配置、気の合う方が近くにいる食席など配慮している 一人になる時間も必要と思われる方には居室で過ごしていただいたりもしている 居室以外で見守りができてホッとできる場所が作れるといいと思っている	/		
54	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	使い慣れた家具や馴染みの物をお持ちいただいている 中には仏壇や家族写真や水墨画などの作品を飾っている方もいます	入居前に自宅を訪問し、生活環境と思いを把握しています。居心地の良さを重視しつつ、転倒リスクを考慮した自宅の家具を念頭に置いた配置にしています。昼間と違った夜間帯の夜間歩行のリスクも踏まえ、夜勤職員が適切な配置に夜勤帯は再調整することで、安全と自立支援の両立に努めています。	/	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	出来る事・わかることを職員が一人ひとり理解し、過剰な介護にならないようにしている 自立支援を意識している。また、手すりの設置、トイレは自分で行けるように看板を大きく表記している。室内の清掃などもできる方にはしていただいている。転倒リスクの高い方には居室内にタンスを置いて安全に動けるように動線を確保している。	/		

事業所名	グループホーム東林間
ユニット名	3階

V アウトカム項目			
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 (参考項目：23, 24, 25)	○	1, ほぼ全ての利用者の 2, 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない
57	利用者と職員が一緒にゆったりと過ごす場面がある。 (参考項目：18, 38)	○	1, 毎日ある 2, 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている。 (参考項目：38)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている。 (参考項目：36, 37)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている。 (参考項目：49)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている。 (参考項目：30, 31)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている。 (参考項目：28)	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない

63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ全ての家族と 2, 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている。 (参考項目：9, 10, 19)	○	1, ほぼ毎日のように 2, 数日に1回程度ある 3. たまに 4. ほとんどない
65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている。 (参考項目：4)	○	1, 大いに増えている 2, 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
66	職員は、生き生きと働いている。 (参考項目：11, 12)	○	1, ほぼ全ての職員が 2, 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての利用者が 2, 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う。	○	1, ほぼ全ての家族等が 2, 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどいない

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
I 理念に基づく運営					
1	1	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。	理念を各ユニットに大きく掲示している 職員は業務で迷いがあった時はいつでも理念に自分の行動に照らし合わせ行動の鏡にしている 職員全員で理念を見直をしたが「誰が見てもわかりやすい」などの意見が多かったが時代（空気）の流れに合っている理念なのか適宜検討する必要はあると感じている		
2	2	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。	東林間自治会、東林間商店復興会に加入している 今年も商店街のゴミ拾いに参加している 地元の有名な阿波踊りを連盟の方に協力してもらい屋上で踊りを披露していただいた 近所の方や家族も見に来られ一緒に楽しむことができた		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。	春先に運営推進会議で認知症の病状や支援や関わり方などのお話をさせていただいた 今後も、住み慣れた地域でともに生活、共存がでるよな社会でありたいと願っているので今後も機会があれば認知症の方の理解を深めていけるようにしていきたい		
4	3	○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。	2か月に1回のペースで運営推進会議を開催している 参加者は、地域包括担当者、自治会長、老人会会長、民生委員、ご家族代表など7名程度 入居者の状況報告や行事を行った時のエピソードをご披露している 参加者からは地域についての困りごとなどの話しが出たりした 災害時は、発電機や井戸水があるので協力をしたい お互いに支え合うことにしている		
5	4	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる。	介護保険制度に係る内容は相模原市福祉基盤課や介護保険課を窓口にして相談や申請を行っている。 すぐ目の前に地域包括があるので何かあると相談にのっていただいている また生活保護受給者枠を設けているので福祉事務所(南生活支援課)の担当者とも連絡・相談など連携を図っている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
6	5	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が、身体的拘束等の対象となる具体的な行為を正しく理解するとともに、身体的拘束等の適正化のための指針の整備、定期的な委員会の開催及び従業者への研修を実施し、緊急やむを得ない場合を除き、身体的拘束等をしないケアに取り組んでいる。	身体拘束委員会4回、一般研修を年に2回定期的に行って理解を深めている 身体拘束をしないケアを努めているが歩けない方が立ち上がってしまうと「ちょっと待って下さい」という発してしまい反省と工夫をしている。 スピーチロックに対する問題意識が高まっているように感じている 長時間の点滴が必要な方が動き回り針を抜かないように見守り、付き添いをご家族に協力出来ないときも拘束をしないで付き添っている		
7	6	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。	虐待防止委員会4回、一般研修を年に2回定期的に行って理解を深めている。小さいあざなどを発見した時も社内だけではなくご家族や医療職にも繋げている報・連・相を大切にし虐待を疑われることのないようにしている。勤務表を作成するとともに従業員がストレスがたまらないように気をつけている虐待を発見したら報告義務があること、通報窓口の周知も研修の中でも行っている 自己点検シートを活用し意識向上も図っている		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるように支援している。	以前、相模原市における権利擁護の相談・説明会に参加したことがある。 家族には相模原成年後見やあんしんセンターの権利擁護相談があることもお伝えしている。 そして、活用するときにはその必要な書類に記入するなど支援をしている		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。	家族に対しては納得していただけるよう施設長と総務部長が十分な説明を行い契約をしている。 また、金銭の改定については、説明をして同意書をいただいている		
10	7	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。	毎月、家族あてに手書き手紙やメール・電話でのやり取りをしている。 どのような生活をしているか、してほしいのか聞いている。 そして、必ず返信はしている。 今年は、敬老会を行い普段の生活の様子を見ていただきながら発言しやすい雰囲気を作った。 できないと思っていたことができていると知って嬉しかったなどの意見があったので運営推進会議等で報告する予定になっている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
11	8	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。	総務部長や管理者はフロア会議や個人面談以外でも話を聞くようにしている。 職員と話しやすい関係を築けるようにしている。 話の内容は運営というよりも人間関係の困りごとが多い。 その内容で解決できることはスピードをもって対応している。		
12	9	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。	年に2回の個人面談を実施 状況に合わせて随時面談を行い環境整備に取り組んでいる また希望休・有給休暇に関しては全職員が取得できる環境になっている 給与においても頑張りを評価・説明している パートさん含め全員に賞与を渡している また年に1回お誕生日月には祝い金をプレゼントしている		
13	10	○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。	常勤・非常勤職員にも外部研修を受講できるようにオンライン(ZOOM)などでも積極的に参加し人材育成に努めているが人員配置が難しく受けられないときもあった 力量に合った研修を選んでいる 参加した職員には記録や会議の場で報告を行い知識の共有を図っている また、初任者研修など資格取得がしやすいようキャリアアップ制度も利用し取り組んでいる		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。	相模原市のグループホーム連絡会に参加し情報交換と質の向上に努めている市の実地指導の内容や入居者の問い合わせの照会など情報交換をしている		
II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。	計画作成者と介護職員が事前に訪問し、本人の意向を確認をして要望に沿った介護に努めているが自宅で過ごしたい方が多いため顔を覚えてもらえるよう サービスを利用開始になるまでは何度か自宅へ訪問したケースもある。認知症が重い方の思いもくみ取れるように会話を大切にしている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。	電話相談の段階から困りごとなどの話を聞くようにしている。 また、できることできないこともお伝えし誤解が生じないように説明をしている 事前面談でも、家族の思いなどくみ取りながら関わり方を考え対応をしている。 そういう中で理解し信頼が深まっていると感じている		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。	計画作成者と介護職員リーダーが事前訪問で得た情報を生かし、介護サービスに反映させるようにしている。 ボランティアなどのインフォーマルサービスも活用したいと思うがいまだにできていない		
18		○本人と共に過ごし支え合う関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。	入居者様の過ごしてきた環境をできる限り維持できるサービスに努めている 男性・女性に関係なく持っている力を発揮できるよう声掛け見守りをしているが、私たち職員が助けてもらっている場面も多くある。 感謝の気持ちも伝えている 達成感や満足感をもってもらうことで本人だけではなく職員もやりがいを感じることができる自立支援も意識している		
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。	家族様が面会に来られた際に普段の楽しいエピソードなどをお伝えしている また家族様との会話でも本人様の気持ちを代弁をして一緒にケアを考えていただくこともある 出来るだけ家族様が安心して帰られるようにしている 遠方の親戚からの電話や連絡にも職員が介入している 家族との過ごす時間を大切にしている		
20	11	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。	誕生日や外出は本人や家族の意向を尊重し外出等もしていただいている。 元同僚の訪問など友人の訪問時は、お邪魔にならない程度に介入し笑顔で接するようにしている。 アヤマ見学や公園など行ったことがあるような所には外出レクとして出かけている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。	要介護度の違う入居者様が各々孤立しないように席の工夫などを行っている また、見下したものの言い方をされないように職員が介入して入居者様同士の関わり合いを増やす機会を作っている		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。	退去後も家族から本人のみならずもう一人の親のことで相談や報告のご連絡があった 入居を検討してくださっている		
Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	12	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。	普段の会話や関わりの中からその方の思いや希望をくみ取るようにしている。その人らしさを大切にして関わっていくように気をつけている 状態の変化に気づきアセスメントやモニタリングをしてケアプランの見直しをしている 職員・家族との情報を共有し職員本位のものにならないように気をつけている 職員は連絡帳や業務日報を見てケアの変更など把握する様にしている		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。	入居時には家族・担当ケアマネジャーからも情報をいただいている 暮らしの希望、意向を把握し習慣など情報の共有をしている		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。	毎日バイタルチェック（血圧・体温・SP02）を行っている 1日の過ごし方など、朝・夕に申し送りを行い現状の把握に努めている また、表情や言動も見ながら1日の過ごし方など考え対応している 職員間でも心身の状況の共有をしている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
26	13	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。	介護職員の思い込みにならないようにフロア会議・ショートカンファで話し合っている 家族・医療関係者の意見を反映させた介護計画を作成し同意・署名をいただいている その方の状態に合わせてケアのあり方を検討している		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。	入居者様の様子は個別の記録をしており、PDCAなどヒントがある時にアンダーラインを引いている 入居者様の状態によって記録用紙を一時的に変えて「見える化」にして情報共有しケアの見直しを実践している 家族に個別記録の開示をしている		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。	家族の希望で病院ではなく輝でできるだけ長く過ごさせてあげたいとの希望が多い 輝や介護者ができることできないことを説明した上で、家族・医療職そして介護と連携をして看取りができています 家族からは面会時間の制限がなく好きなときに来れて良かったと感謝された		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。	地域資源をもう少し把握する必要がある 公民館や地域で行っている催し物会場に参加したり 昔得意としていた刺繍や編み物の展示会など見に行けたら良いと思う また、ボランティアも入れて楽しめる時間を増やしたい		
30	14	○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。	近くの整形外科に通院していたが、主治医と本人の希望もあって遠方の整形外科に通院して歩行ができるようになった。 また、主治医と訪問看護ステーションとは24時間の医療連携をとっているため訪問もしてくれて薬の指示や点滴などの対応もして通院や入院などしなくても家族・職員共に安心ができています。 他の病院を受診をする必要が或る時は紹介状を準備して下さったりfaxを送ってくれている 主治医は状況によっては、家族に連絡や説明をしてくれている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。	24H対応の訪問看護・クリニックと提携をしている、ともに月2回他何かあった時はその限りではない 訪問看護師には関わりの中での精神的・身体的等の変った点などの気づき、薬の変更等を含め報告相談をしている。医療と介護の連携が取れる様に医療連絡ノートを記入し情報を共有している LINEアプリでも随時連絡をとっている 看護と介護が連携して家族様に安心していただき看取りもできた		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	骨折や原因不明熱で入院が必要となった時は日常の様子が変わる職員が家族と一緒に付き添いをしている 病院関係者から情報を収集し輝の主治医にも報告している できるだけ輝での生活に戻れるように支援している		
33	15	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。	重度化した場合や終末期のあり方について意向を伺っている 看取りの方針に基づいてご家族に説明し、同意・署名をしていただいている 状態に変化がある度に家族の意向に変更がないか伺い、輝・家族・医療職のチームで情報を共有し支援している		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。	転倒事故や急変時に行わなければならない事や救急車要請時の報告の仕方・持ち物など、いざという時に対応できるように確認している 連絡先などはわかりやすいように電話のある壁に貼ってある		
35	16	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。	毎年2回訓練を実施している 地元の消防署の協力ももらい避難訓練・消火訓練を行う 訓練では人手の少ない夜間帯での想定訓練の実施した 他には備蓄管理(消費期限)・保管の見直しや停電時に備え発電機も購入した 災害時には事業所内の井戸水を地域でも使用してもらうことを伝えている BCPを作成し研修に向けて取り組んでいる		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	17	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。	入職時には、必ずマニュアルを利用して研修している 認知症という病気の理解を深め否定をせずその方の思いに寄り添う介護ができるよう努力している 身だしなみも気をつけ、お化粧品なども継続して支援している。「その人らしさ」を意識している お手洗いの声掛けの大きさ、タイミングを配慮し難聴の方にはジェスチャーで伝え入浴は、できるだけ同性介助している		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。	職員の思いだけではなく基本はご意向を伺うようにしているため入浴日も決めていない「はい、いいえ」で答えられるような簡単な聞き方をしている 重度化してもその方の思いを大切にするため言葉はしっかりと受け止めて記録に残し共有している		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。	職員の都合や業務を優先しないように入居者様本位で対応するように心がけている 共同生活の場でもあるので他の方とのバランスも見ながら調整対応している		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。	訪問理髪は2か月に1回行っている カラーリングや希望のヘアカットにしている 季節に合ったその人らしい着こなしになるよう、お化粧品(アイブロー・口紅)ができるように関わっている		
40	18	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。	盛り付けや片づけは入居者様とおしゃべりをしながら一緒に行っている 季節感のある献立を提供している 残すことの多い献立については見直し皆の好みに合わせている 行事の際は握り寿司を提供、生ものが苦手の方には炙りやシラスなど代替えで対応している 屋上も開放し手作りのおにぎり(皆で握って)を食べるなど「食べる楽しみ」を大切にしている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。	食事量・水分量のチェック表を活用している 体重の増減・体調の変化に合わせて量や食事の内容や好みの飲み物なども変えて対応している 食事量が少なくなった方には、ラコールなども飲んでいただくよう関わっている		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。	毎食後は必ず口腔ケアの声掛けをし、一人では難しい方は介助し実施している また訪問歯科の利用もあり、助言を頂きながらケアに反映している 誤嚥性肺炎にならないよう十分に気をつけている		
43	19	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。	出来る限りトイレで排泄をしていただくよう声掛け誘導している。夜中も、トイレが頻回でお連れすることができない方にはポータブルトイレを使用している 排泄チェック表を確認しながら排泄リズムの把握に努めた結果、リハビリパンツから綿のパンツに変更することが出来た声掛けや誘導の際はプライバシーに配慮している 夜間も安眠妨害にならない程度に声掛けしている		
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。	消化の良い食事の提供、牛乳・ヨーグルト・カルピスなどの提供、毎日のラジオ体操や嚥下体操、廊下歩行運動など一緒に行ったり、時には腹部のマッサージなどをし便秘解消に努めている。また申し送りを行い排便コントロール(頓用薬)もしている。イチジク浣腸でやっと排便が出来ている方もいる		
45	20	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている。	曜日は決めておらず入居者様の状態や気分に合わせて対応している。 また同性介助を基本とし、遅番・夜勤者対応で夜間に入浴していただくこともある シャンプーハットを使用している方もいる、井戸水のためか肌触りがいいように感じている 冬至の時は、近所からいただいた柚子を入れて季節を感じていただいている		

自己評価	外部評価	項目	自己評価		外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。	騒音や照明など環境には十分気を配っている 就寝時間も個別で対応している 座っている時間が長ならないよう短時間の休息をとっていただいたりしている 眠れない方にはホットミルクを提供しフロアで過ごしていただいたり足浴をして安眠につなげている			
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。	誤薬のないようにダブルチェックをしている スタッフは大体だが誰が何の薬を服用しているのか把握するようにしている 薬に変更がある時には状態の変化にも気をつけ、家族・医療職にも情報の共有を図っている			
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。	主婦をしていた方には家事仕事を出来るだけ一緒に行うようにしている また歌や昔の職業・生まれ育った場所などに関連した昔話など(回想法)をして笑顔がみられている 麻雀や手芸など1F小規模の職員に協力してもらっている			
49	21	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。	「お天気がいいね」と言われた時などは特に散歩や屋上に出て日光浴をしている「気持ちがいいね」「お花がきれい」と、また、家族との外出(自宅・外食)を支援している。 表情もよく気分転換になっている			
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。	お小遣いは施設で管理している 以前は職員と一緒に買い物に行き使うことを支援していた お金を持っていないと不安な方には家族から承諾いただき所持していただいている			

自己評価	外部評価	項目	自己評価	外部評価	
			実施状況	実施状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。	年賀状や手紙を書いていただくことが出来ずにいるが終末期を迎えている方に毎日のように「今の思い」と題して書いて頂きご家族が宝物にすると大変喜んで下さった。家族や友人からの入電時にはお繋ぎし会話できるように職員が仲介している また自身の携帯電話の操作がわからない方には使い方をお伝えしている 1日1枚、ご自分の思いを書いていただいている いつか家族に渡したいと思っている		
52	22	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。	玄関やフロア内には季節を感じていただけるよ模様替えをしている トイレは1日3回の清掃、共有の空間は毎日清掃・消毒・換気に気をつけ感染症対策に気をつけている。 居室には、自作の水墨画や刺繍の壁掛けが飾ったりしている		
53		○共用空間における一人ひとりの居場所 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。	テーブルの配置、気の合う方が近くにいる食席など配慮している 一人になる時間も必要と思われる方には居室で過ごしていただいたりもしている 居室以外で見守りができてホッとできる場所が作れるといいと思っている		
54	23	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。	使い慣れた家具や馴染みの物をお持ちいただいている 中には仏壇や家族写真や水墨画などの作品を飾っている方もいます		
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。	出来る事・わかることを職員が一人ひとり理解し、過剰な介護にならないようにしている 自立支援を意識している。また、手すりの設置、トイレは自分で行けるように看板を大きく表記している。室内の清掃などもできる方にはしていただいている。転倒リスクの高い方には居室内にタンスを置いて安全に動けるように動線を確認している。		

令和7年度

事業所名 **グループホーム東林間輝**

作成日： 令和8年 2月21日(土)

優先 順位	項目 番号	現状における問題点、課題	目標	目標達成に向けた 具体的な取り組み内容	目標達成に 要する期間
1	3	運営推進会議について 結果報告書のみで具体的な内容が不透明で あった	運営推進会議誰が見てもわかりやすい内容 の活動報告書の作成	報告書の内容について具体的に「実施日・ 会場」「参加者」「議論された項目・内 容」「意見交換時の内容」など細かくわか りやすいようにまとめる 次回の会議に向けた課題も載せていきたい	2 ヶ月
2	10	外部研修について 某感染症以降、外部研修は控えていた そのため外部研修が少ない	職員の育成をするうえで外部研修は必要で ある(いつもと違った視点の重要性) 感染症のリスクも考えて研修の形式を選択 していく	外部評価でご指摘があったように、感染症 のリスクや職員の参加しやすい研修を考え たい 引き続きリモートでの研修他、外部から講 師を呼ぶことも検討していきたい	6 ヶ月
3					ヶ月
4					ヶ月
5					ヶ月